

榎島にミニバスを走らせませんか

～「榎島町内に公共交通を走らせる取組みについて」～

榎島まちづくりを考える会
榎島地区コミュニティ推進協議会
宇治市交通政策課

平成25年4月より榎島町内の路線バスが廃止となって、交通が不便になった地域のために、榎島町内で公共交通を走らせる取組みを始めようと、榎島まちづくりを考える会、榎島地区コミュニティ推進協議会が主催し、平成26年7月13日榎島コミュニティセンターにて説明会を開催しました。その後、町内会毎に計8回の説明会を開催し、下記の通りこれまでの経過説明及び榎島地域の公共交通についての検討案を提案しました。この取組みにより、榎島地域の住民が協力して取り組むことで、安心して生活できる住みやすいまちづくりを進められればと考えています。

(1) 説明会が行われるに至った経過説明

①公共交通の現状と課題

⇒平成25年4月より榎島地域などでの路線バスが廃止となった経過を説明しました。

②宇治市のりあい交通事業について

⇒宇治市は新たな交通手段確保のための制度「宇治市のりあい交通事業」を創設しました。この制度は地域住民・事業者・市の役割分担により、ミニバス等を運行する事業です。赤字の場合は地域住民と宇治市の負担で補います。ルートやダイヤは、地域が主体となって作ることができます。



③榎島町の場合は？

⇒榎島町の場合、たくさんの自治会・町内会があり、それぞれ事情も異なります。榎島まちづくりを考える会や榎島地区コミュニティ推進協議会だけで議論するのではなく、公共交通が必要かどうか、みんなで話し合う必要があると思い、説明会を設けました。

(2) 新たな交通手段についてルート、ダイヤ、運行経費等の素案を説明

地域の皆さんに意見を聞いたたたき台とするため、「のりあい交通(素案)」を作成しました。

①榎島町での新路線のルート、ダイヤについて

⇒徳洲会病院を起点にして、東はJR宇治、京阪宇治まで。西は紫ヶ丘を経由して西目川までのルートを考えました。

※(素案)は今後の地域の意見や関係機関協議等により見直しする場合があります。

②運行に必要な経費について

⇒会議では「地元負担金確保の具体例」として、「明星レインボウバス」は自治会費の値上げ。「醍醐コミュニティバス」は沿線企業の協賛金でバスの運行を支えていることを紹介しました。

⇒榎島地域では、「宇治市古紙回収事業」の報償金制度を活用し、各町内会から寄付金を集める案を提案し、この方法をとれないか意見を聞きました。

⇒また、地元負担金がどの程度必要か、目安を把握するため、運賃を200円、平日運行・土日祝運休の場合で、一日あたりの利用者70人として試算し、年間約300万円の地元負担金を確保する必要があることを説明しました。

しかしながら、この地元負担金は、公共交通を利用すればするほど、地元負担の割合が減る仕組みになっています。



H26.7.13 説明会の様子

(3) H26.7.13 説明会での主な意見

【要点】①榎島地域に新たな公共交通は必要かどうか

②宇治市の制度を活用し、地元負担して地域の公共交通を運行することが必要か。

【意見要旨】

①に関すること

- ・高齢になるとバスが必要
- ・高齢者だけをターゲットではなく、将来をみこしたものを
- ・みんな危機感はない
- ・地域で温度差がある
- ・バスが走っていることを知らない。広報があっても関心が薄い。バスに関心を持ち、魅力をアピール
- ・自転車でいけば早いのになぜわざわざバスで行くのか
- ・榎島全体の将来のためには、必要だと思うが、町内会での理解がどれだけ得られるかが問題
- ・バスを走らすことでまちのコミュニティができる

②に関すること

- ・各町内会・集会所で説明会を開催してほしい
- ・町内会員はどう思うか、まとめるのに苦労する
- ・バスが走ったとして、町内会に入っていない人が乗っていたら、負担している人はおもしろくない
- ・町内会の皆さんもバスの必要性を周知する方法が必要
- ・古紙回収のお金は用途が決まっているので難しいが、アルミ缶なら協力できると思う
- ・古紙・アルミ缶をバスの費用に活用するのは良い
- ・企業の広告協力金をもらう

③その他

新路線、ダイヤについて

- ・ワンボックスの車両運行は良い
- ・ダイヤについて、乗り残しがあるときどうするか
- ・土日祝日、ダイヤは、各町内会とも持ち帰り、検討が必要
- ・バスルートにはない町内会はどうするか
- ・全町内会を網羅するのは難しいのではないか
- ・ジャンボタクシーなら細い道もいける。みんなに期待されるものになる
- ・ジャンボタクシーの特性をアピールして使ってもらえるものになる